

VI. 広報活動

霊長類研究所では広報委員会が担当して、公開講座、研究所公開、オープンキャンパス（大学院ガイダンス）などを開催し、研究所の活動を所外の方々に紹介している。また、リーフレット、ホームページなどでも紹介・広報活動をおこなっている。

1. 公開講座

犬山公開講座「霊長類学の愉しみ」

2011年7月30日（土）～31日（日）、京都大学霊長類研究所にて開講した。参加者は47名。

＜プログラム＞

講義：高井正成「サルの来た道」

講義：マイケル・ハフマン「霊長類の薬膳料理：予防と治療の世界」

講義：林美里「チンパンジーのこころとその発達」

講義：岡本宗裕「サルの寄生虫とヒトの寄生虫：共進化と宿主転換」

実習：形態「骨学・化石」（毛利俊雄）

心理「チンパンジー観察」（林美里）

生態「ニホンザル行動観察」（渡邊邦夫）

遺伝「遺伝子分析」（川本芳）

東京公開講座「サルを通して見た世界」

2011年9月25日（日）、日本科学未来館7階みらいCANホールにて実施した。参加者は206名。

＜プログラム＞

所長挨拶：松沢哲郎

講演1：辻大和「サルを通して生き物のつながりを考える～金華山島のニホンザルの観察から～」

講演2：香田啓貴「歌うサルの不思議：テナガザルのコミュニケーション」

講演3：高田昌彦・松本正幸「ドーパミンと脳機能：パーキンソン病から報酬行動まで」

講演4：古賀章彦「ヒトゲノムの45%を占める動く遺伝子」

質疑応答

2. 第21回市民公開日

2011年10月30日（日）13：00から15：30まで市民公開がおこなわれた。内容は、今井啓雄による講演「味覚は遺伝する？—個人差・個体差と進化」と放飼場・展示室の見学だった。参加者は43名。

3. オープンキャンパス・大学院ガイダンス

大学の学部生をおもな対象とし、大学院ガイダンスを兼ねた2011年度のオープンキャンパスを、2012年2月21日、22日に開催した。各分科の教員による講義、所内見学、各分科教員との懇談会、さらに大学院生・研究員等も参加した懇親会がおこなわれた。参加者は26名。

＜プログラム＞

2月21日（火）

所長説明

各分科の紹介1

認知学習分科、系統発生分科、社会生態分科（生態保全）、社会生態分科（社会進化）、ゲノム多様性分科

入学試験説明

各分科の紹介2

実験動物科学分科、思考言語分科、高次脳機能分科、統合脳システム分科、ゲノム進化分科、進化形態分科
懇親会（夕食を兼ねた立食形式の懇親会で、教員や大学院生とのコミュニケーションを図った）

2月22日（水）

所内見学

分科ごとの懇談1

分科ごとの懇談2

（文責：早川敏之）